

第198回ヘルスケア研修会 「従業員のQOLを高めるために」

従業員が主体的に取り組むための健康相談の流れや、ポイントを紹介



昨年施行された健康増進法では、健康増進事業実施者に対して、国民の健康増進のために必要な事業を推進することを責務としており、「健康教育」はその筆頭に例示されている。このため、健康管理コンサルタントセンターと本会が主催するヘルスケア研修会では、「今、求められる健康教育」のテーマで各分野の専門家による講演をシリーズで行ってきた。その4回目にあたる今回は、村田陽子ピーイングサポート・マナ代表を講師に招き、「従業員のQOLを高めるために」をテーマに、ヘルスケア研修会を開催した。

村田陽子代表(写真)は健康教育のコンサルタントとして、各地で看護職などを対象としたセミナーを行っている立場から、健康教育の考え方やコーチング手法、健康相談のポイントなどについて解説を行った。

健康相談の流れや、ポイントを紹介

村田代表は、まず、「健康」とは、単に病気にならないようにすること、健康診断のデータを改善するといったことではなく、従業員1人1人が自分の生きがい、やりがいや達成感を得るために、健康の側面からサポートしていくことであると述べ、「QOLをあげるため、よりよく生きるため、満足した日々を送るための相談が健康相談であり、そのためには従業員が自らの行動を主体的に選択し、行動に移すためのサポートが重要となる」と強調した。

さらに、肯定的な言葉かけと否定的な言葉かけの違いや、消極的受容と積極的受容を用いた傾聴技法、気づきをサポートするための上手な質問の仕方などについて、さまざまな例をあげながら紹介し、「私たち保健医療従事者の価値観や先入観を脇に置いて、来談者の話を聞くこと」の重要性を強調した。

村田代表は、「こうした技術を使って来談者の現状や望んでいる状態が把握できたら、問題解決のためにどうしたらよいかを話し合いながら一緒に考えていく。そして何らかの解決方法が得られたら、その人が実践を繰り返して自分に合う方法を見出していくようなサポートすることが大事である」と述べ、「サッカーのサポートは選手に代わってプレーするのではなく、サポートするだけではできないが、その応援によって選手は120%の力を発揮できる」と語り、私たち保健医療従事者も、住民や従業員が一杯プレーできるように周りに応援をしていくサポートである。私たちは、来談者に代わって行動や方向を決めたり、プレーすることはできない。けれども、その人が人生の競技を走りぬくための応援をしていくことが私たちの仕事であり、生きがいとなる」と講演を締めくくった。

係を築いて、話をささげることなく上手に聞き、質問していくと、その人は自分で自分のことを考え始め、主体的に答えを探そうようになる」と説明した。

第49回 予防医学事業推進 全国大会が神戸で開催

「新しい健康社会を考える」をテーマに、第49回平成16年度予防医学事業推進全国大会が11月26日、神戸市の神戸新聞松方ホールで開催された。大会には、本会をはじめ、予防医学事業中央会の全国支部で健康教育や健診活動を推進している担当者、保健医療行政担当者、学校・地域・職域保健の専門家ら約800人が参加した。

主催は、予防医学事業中央会、日本寄生虫予防会、兵庫県予防医学協会。

大会では、国井涉前保健会館館長・元予防医学事業中央会事務局長が、「寄生虫予防から予防医学運動への転換」のテーマで記念講演し、寄生虫予防会の誕生とその運動の成果を報告した。

また、「健康日本21と市民の役割」生活習慣病対策の見直しへ向けて」と題して特別講演を行った瀬上清貴厚生労働省大臣官房参事官は、健康日本21の中間評価と課題、健康フロンティア戦略と三位一体改革による健康診査・健康増進事業への影響などを解説し、「今後は、健康増進法の改正なども視野に入れながら、精度の高い健康診断の実施と、行動変容を支援する事後指導の徹底に努める必要がある」と強調した。

なお、予防医学事業推進に貢献した人に贈呈される予防医学事業中央会感謝状が、石垣四郎(兵庫県予防医学協会顧問)、吉田勝美(聖マリアンナ医科大学教授)の両氏に贈られた。また、予防医学事業中央会賞が伊藤丈夫(福島県保健衛生協会事務局長)、三村重信(兵庫県予防医学協会経営企画センター健康部長)の両氏に、奨励賞が本会の六澤



昭、土屋菊枝両氏ら30名に贈られた。

第199回ヘルスケア研修会
就業形態多様化時代の健康相談
新しい看護職の役割・健康の自己責任を支援する
1月26日(午後2時~4時)
東京・永田町「星陵会館」
第199回ヘルスケア研修会が平成17年1月26日(水)午後2時から4時まで、東京・永田町の「星陵会館」で開催される。

「就業形態多様化時代の健康相談 新しい看護職の役割・健康の自己責任を支援する」をテーマに、パネリストカシヨンを挙げる。パネリストは、ビッグアビリティ代表取

第23回臨床運動療法懇話会
メタボリックシンドロームと運動療法
2月20日(午後1時~4時40分)
東京慈恵会医科大学 1号館3階講堂
第23回臨床運動療法懇話会
縮役専務の大原博氏、パソナ衛生管理者の雨宮央氏ほか。司会は、飯島美世子オフィスいいじま代表。

会場の「星陵会館」は、地下鉄各線「永田町」国会議事堂前、「溜池山王」、赤坂見附「駅下車、徒歩10分以内の」ところ。当日会場受付で、参加費2000円を支払えば、どなたでも入場できます。定員先着400名。

「メタボリックシンドロームと運動療法」をテーマに、谷口郁夫東京慈恵会医科大学助教授による講演「メタボリックシンドロームとは?」、久保明高輪メタボリッククリニック院長による講演「メタボリックシンドロームに対する食事と運動療法」のほか、最近の話題として「AEDについて」が取り上げられる。

参加費は、医師5000円、医師以外3000円。

参加申し込みは、M.A.コンベンションコンサルティング内の臨床運動療法懇話会事務局(電話03-5275-1191)まで、申し込み締切りは2月7日。

日本消化器集検学会から 「認定指導施設」を委嘱

本会では、早い時期から胃がんを中心とした消化器検診に取り組む、上部消化管のX線撮影の精度管理に力を入れてきた。

日本消化器集検学会では、消化器集検の精度管理体制を一層充実するために、集検の指導医ならびに指導施設を委嘱制度を発足させている。このうち指導施設とは、「職域や地域ならびに施設集検において、指導医1名、認定医1名以上が勤務し、指導医の責任の下に十分な指導体制がとられている施設(機関)」である。

同学会の認定委員会が認定した施設である(同学会認定医制度規定第14条)。

本会はこのほど、この認定委員会の審査によって指導施設の資格があると認定され、写真は、日本消化器集検学会が本会を指導施設に認定した「認定指導施設」。

学童検診業務の必携システム!

FUKUDA DENSHI

ECP-4641
医療用具承認番号:20800BZZ00230000

- 学童省略4誘導、標準12誘導、心音図を自動解析
- 心電・心音図検査を60人以上/時間のスピードで処理
- 不整脈自動延長機能を搭載(学校保健法施行規則に対応)
- 内蔵フロッピー装置、ICカード装置で収録データの再生可能
- 成人病検診にも活用可能

※解析プログラムは学校心臓検診二次検診対象者抽出ガイドラインに対応
※検診業務に対応する専用パネル採用

フクダ電子ホームページ http://www.fukuda.co.jp
お客様窓口 ☎(03)5802-6600

●医用電子機器の総合メーカー
フクダ電子株式会社
本社 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03)3815-2121(代) F113-8483